

世の中の本質を誠実に描き続けた“社会派”映画監督

熊井 啓 (くまい けい)

南安曇郡豊科町吉野 (現 安曇野市豊科) 出身
豊科町名誉町民 (現 安曇野市名誉市民)

<熊井啓が活躍した時代> 1930 (昭和 5) 年~2007 (平成 19) 年 享年 76 歳

昭和	5	11	28	29	39	40	43	49	平成	7	13	13	14	19	
幼少時	豊科吉野の6年生を過す。	小学校5年生を卒業。	松本市に移住し、中学校を卒業。	信州大学文学部社会学	次等田舎の助監督を務める。	豊田にプロダクションを設立する。	影田隆久の監督になる。	独立プロを経て日活撮影所に入る。	映画「帝銀事件・死刑囚」で監督デビュー。	日本映画協会新人賞を受賞する。	映画「黒部の太陽」を最高興行収入として発表される。	映画「黒部の太陽」を最高興行収入として発表される。	映画「黒部の太陽」を最高興行収入として発表される。	映画「黒部の太陽」を最高興行収入として発表される。	映画「黒部の太陽」を最高興行収入として発表される。

“社会派”監督と称される熊井啓

実証的な方法で映画をつくることによって、平沢貞通が無実であることを私は確信できた



↑監督デビュー作「帝銀事件・死刑囚」の撮影を振り返って語ったことば

世間から隠された目に見えない真実を鋭い視点で綿密に調べあげ、筋道を立てて描くことで、事柄の本質をあぶり出す。熊井はデビュー作品から徹底してその姿勢にこだわってきた。「正しいことは、正しい。」情熱を持って誠実に社会の本質を追い求め続けた熊井は、日本を代表する“社会派”映画監督として19本の映画作品を残している。

『帝銀事件・死刑囚』1964年



©日活株式会社

1948年に起きた帝銀事件を題材に、丹念な資料調査、平沢貞通死刑囚との面会、現場の実地の調査や関係者への取材を積み重ね、事件発生から最高裁の死刑判決までを追った、セミドキュメンタリードラマ。

『日本の黒い夏 冤罪』2001年



©日活株式会社

松本サリン事件の真実に迫った作品。帝銀事件の取材経験をもとに、第一通報者に対する強引な警察捜査やマスコミによる誤報の問題点をえぐり出した。ベルリン国際映画祭ペルリナーレ・カメラ賞受賞作品。

『黒部の太陽』1968年



『黒部の太陽』【通常版】

ブルーレイ & DVD-BOX 発売中
ブルーレイ：¥4,700(本体) + 税
DVD：¥3,800(本体) + 税
発売元：ポニーキャニオン
製作著作：株式会社石原プロモーション

“世紀の難工事”と言われた黒部ダム建設、特にトンネル工事を描いた。より現実に近い映像にするために過酷なロケを断行し、命懸けで撮影に臨んだという石原裕次郎は生涯で最も印象深い作品の一つだと述べている。

『サンダカン八番娼館 望郷』1974年



『サンダカン八番娼館 望郷【東宝DVD名作セレクション】

DVD 発売中 ¥2,500 + 税
発売・販売元：東宝

戦後、「戦前期日本の恥部」として一般に知られることが少なかった、日本からポルネオに渡ったからゆきさんの実像を描き出し、問題を投げかけた。ベルリン国際映画祭銀熊賞受賞、アカデミー賞ノミネート作品。

映画一筋！命が尽きるまで大好きな映画に没頭した人生

◇「病院のベッドで輸血を受けながら創作意欲をたぎらせる監督を目の当たりにし、精神こそ作品を成すものであると教えられ、これは監督の全作品を貫く創作態度だった。一步も譲らぬ映画人でした。」(「忍ぶ川」主演・加藤剛弔辞)

◇「彼は一つひとつの作品に命を燃焼してやってきましたので、どこで終わっても満足だったと思います。」(「明子夫人」啓お別れの会”あいさつ)

参考文献 『映画の深い河』 熊井啓 著

「めぐりあい 映画に生きた熊井啓との46年」 熊井明子 著

参考HP 『熊井啓記念館』 <http://www.city.azumino.nagano.jp/>

「安曇野市ゆかりの先人たち」 <http://www.city.azumino.nagano.jp/yukari/>

『熊井啓記念館』に行ってみよう！記念館では諸作品のシナリオ、ポスター、スチール写真、映画祭で受賞したトロフィー、監督愛用の椅子などを間近で見ることが出来ます。熊井作品を見た後は、豊科交流学習センター「まほう」2階にある記念館を訪れて、熊井監督の息遣いを感じてみましょう。 **連絡先:0263-71-4033**